

平成30年度 新田小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤とし，知・徳・体の調和のとれた，心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

(2) 具体目標（具体的な児童像など）

仲よく

- ・よく考える子ども …… 規範意識を持ち，自ら考え，進んで学べる子ども
- ・思いやりのある子ども … 自他のよさに気づき，共に伸びようとする子ども

強く

- ・体力のある子ども …… 心身ともに健康で気力や活力に満ちた子ども

たくましく

- ・はたらく子ども …… 目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成」

子どもたちが心身ともに健やかに育つことを目指し，学校・保護者・地域が協働し，生き生きとした活気あふれる学校づくりに努める。そのため，人間尊重の精神を基盤とし，家庭・地域の教育力の活用を図りながら，高い指導力を備えた教師による豊かな教育活動を展開し，子どもたちの人間力を豊かに育成する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 学習指導の充実

確かな学力を身に付け，実社会や実生活の中で活用できる力を育む教育を工夫・創造する。

(2) 教師力の向上（局所的学校力）

教職員として使命感や誇りを持ち，細やかな目配り，気配り，心配りによる具体的な実践力向上を図るとともに，職務内容の重要度と優先度を意識した適切かつ効率的な職務の遂行に努める。

(3) 組織力の向上（全体的学校力）

より質の高い教育を目指して，互いに学びあい，情報と状況を共有し，心を通わせる教師集団による参画と協働を展開する学校組織の強化，充実を図る。

(4) 特別支援教育の充実

一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する。

(5) 心身ともに健やかな身体の育成

健康で安全に生活できる能力を身に付け，気力や体力を育む教育活動の充実を図る。

(6) 豊かな心の育成

自己有用感を高めるとともに，思いやりの心を持ち，自他の生命を尊重する豊かな心を育む。

(7) 人間力の育成

社会的自立の基礎を培い，社会の変化に対応しながら力強く生きぬく実践力・行動力を育成する。

(8) 信頼される開かれた学校づくりの推進

子どもは地域の中で育むという視点を持ち，学校，家庭，地域との連携，協働を図りながら信頼される開かれた学校づくりを推進する。

(9) 危機管理・環境整備の充実

子どもが安心して安全に過ごせる環境づくりに努めるとともに，落ち着いて生活できる心地よさを感じる教育環境の整備を推進する。

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を，「かかわる教職員の思いと責任を共有し連携をして，児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導として」，継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】	「自己肯定感が高く、へこたれない力の強い児童の育成」 ～子どもの匂いのする学校～ ・子どもの思考・判断・表現力を大切にする ・「褒められた経験」「叱られた経験」を重視する
【学 習 指 導】	「自ら学びに向かおうとする児童の育成」 ～学びたいと思わせる導入を生かした授業展開の工夫～ ・望ましい学習態度、週間の定着 ・学力向上に向けての実効性のある対応 ・学ぶ意欲を高める授業づくり
【児 童 生 徒 指 導】	「自他への思いやりの心をもち、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」 ～正しい言葉遣いと礼儀，学年学級経営の充実を基盤として～ ・基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成 ・望ましい集団づくりにつながるよりよい人間関係づくり ・家庭・地域・関係機関との連携
【健康（体力・保健・食・安全）】	「自らの健康に関心をもち、望ましい生活習慣を身につけようとする児童の育成」 ～生活習慣の改善を目指した保健指導の取組を中心に～ ・健康の保持増進 ・運動の日常化 ・食に関する指導の充実 ・家庭・地域との連携

5 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
学 校 運 営 の 状 況	A 1 学校は，活気があり，明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は，今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	・児童相互及び教師と児童の温かい人間関係を育む学級・学年経営を基盤に，学校全体が児童一人一人のよさに目を向け，言葉掛けや「かがやきカード」でプラスのメッセージを伝え合うなど，児童の自己肯定感を高める取組を行う。 ・様々な教育活動に，兄弟学年や縦割り班等の異学年交流を効果的に取り入れることで，体験を通して思いやりの心を育てる取組を推進する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は，数値指標及び市平均を上回る92.6%で，昨年度同様，高評価を得た。また保護者の肯定的回答率も過去最高の95.1%となり，市平均を上回った。 学級・学年経営を核として温かい人間関係づくりや自己肯定感を高める取組を行うなど，保護者や地域の方々の理解と協力を仰ぎながら全校一丸となって取り組んできた。学校教育活動に，6学年児童が積極的にリーダーシップを取れる場や，異学年が助け合って交流できる場を効果的に取り入れてきたことも成果につながった。今年度誕生した本校のイメージキャラクター「こふんちゃん」の効果も大きい。 【次年度の方針】 引き続き温かい人間関係を育む学級・学年経営を核に，学校全体が児童一人一人のよさに目を向け，児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を行う。また，教育相談や学校生活アンケート，校内支援委員会等を最大限に機能させることで，いじめ等の早期発見，早期解決に努める。更に，様々な教育活動を通して，高学年のリーダー性を高めながら児童の主体的な活動が図れるよう，また，異学年交流等を通して相手を思いやる気持ちを育めるよう努めていく。 A 1 は学校教育の根底を支える指標と捉え，今後もより高い結果を目指して各種教育活動に取り組んでいく。

A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】① 全体アンケート「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上 【数値指標】② 全体アンケート「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・学びたいと思わせる導入を生かした授業展開の工夫を核として、ねらいを明確にした「分かる」授業や「学び合い」のある授業を目指し、全教職員で研究・実践していく。 ・毎月行われる児童指導情報交換会や年2回の教育相談週間、日頃の小さな情報交換等により、全教職員が児童理解を深め、組織的に対応する意識を高める。 ・必要時には、速やかに報告連絡相談を行い、適宜校内支援委員会等を開催して、組織的な対応ができるよう、学校体制を整える。	【達成状況】 肯定的回答率は児童97.1%, 保護者93.3%で、数値指標を達成した。過去5年間の推移を見ても、双方とも良好な結果を示したほか、特に保護者において前年値及び市の平均を上回ったことは、大きな励みとなった。 児童一人一人のよさに目を向け言葉で伝える取組を、学校全体で行うとともに、児童指導情報交換会や校内支援委員会等、必要に応じた組織的な対応により、全校体制で指導に当たってきた。保護者とも連絡を密に取り、適切な対応を行うことができた。 また、全教職員が「丸」となって「学びたいと思わせる導入を生かした授業展開」や「ねらいを明確にした『分かる』授業、『学び合い』のある授業」を目指し実践してきた。 【次年度の方針】 引き続き児童のよさに目を向けた指導とともに、教育相談や情報交換、時宜を得た校内支援委員会等により、全教職員が児童理解を深め、組織的に対応できるよう努める。 「分かる」授業や「学び合い」（主体的・対話的で深い学び）のある授業を目指して、全校体制で研究・実践を進めるとともに、朝の学習の時間を活用した個に応じた学習体制の導入等により、基礎・基本の定着を図る。また、これらの取組を積極的に情報発信していく。
A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・生活のきまり（「よい子の生活」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、同歩調で連携して粘り強く取り組む。 ・児童の実態をもとに、生活目標にきまりとマナーに関する目標を設定し、朝の会や帰りの会で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 75.6%で、数値指標及び市平均を下回った。規範意識の向上が依然として課題である。 【次年度の方針】 生活のきまりについては、ポイントを絞って教室に掲示したり長期休業前に自己評価をしたりして、自己を見つめ直す時間を確保し称賛することで自己肯定感を高める。また、児童の手で啓発ポスターを作成するなど主体的に考える場を設けることで、意識の向上を図っていく。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童肯定的回答率 85%以上	・基礎・基本の定着を図るために、授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認し「分かる楽しい授業」を展開するとともに、常に指導の工夫改善に取り組む。 ・ティームティーチングや少人数指導、かがやきルームでの指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。	【達成状況】 児童による肯定的回答率は 95.2%で数値指標を上回っており、市平均と同程度である。今年度、理科において、学びたいと思わせる導入や分かる授業展開の工夫について研究してきたことを、他教科にも活用してきた。 【次年度の方針】 今年度同様、分かる授業やきめ細やかな指導を目指し、一人一授業を実践し、授業改善を行うことにより学力の向上を図る。また、各学年における国語と算数の基礎基本を定着させるための教材研究に努め、朝の学習の時間などに実施する。

A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	・5, 10, 1 月に実施する「学校生活アンケート」や 6, 11 月に実施する教育相談並びに Q・U の結果等を活用し、児童の変化を見過ごさず、いじめの早期発見、早期解決に努める。 ・いじめの可能性を認識した時点でいじめ等対策委員会を開催し、全教職員で解決、根絶に取り組んでいく。 ・いじめゼロ強調月間（5 月・9 月）の取組を通して、児童にいじめは決して許されないことを理解させるとともに、学校での取組をたより等で保護者にも発信していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 97.2%で数値指標を上回った。特に保護者において昨年度より 14.8 ポイント増加し、市平均を上回った。これは、質問文の文言「積極的に公表」が外されたことにもよるが、いじめの早期発見、即時対応、いじめ対策委員会の開催など、全職員体制でいじめ解決に努めることができたことと、いじめゼロ集会を保護者参観にしたことで、学校での取組についてより理解していただけた結果と考える。 【次年度の方針】 集会活動や標語作りなどを通して、いじめ根絶の意識を高めていく。学校生活アンケートや教育相談を今後も充実させ、個人懇談など保護者と連携を図りながら、児童の心の不安等にいち早く気付き、向き合う体制を整え維持していく。地域、保護者にも多くの情報を発信することで取組への理解を促す。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケート「学校の日課、授業、行事などの教育課程は、適切に実施されている」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・学校行事等を年間にバランスよく配置し、無理のない、児童の生活リズムを考慮した日課となるよう改善を加え、教育活動に生かしていく。 ・授業時数を十分確保しながら、児童の興味・関心を高めたり学習を深めたりできるような体験学習や出前講座なども、必要に応じて取り入れる。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率は 95.6%で、数値目標を上回った。朝の活動から児童が落ち着いて取り組めるよう、教職員の打合せ時間帯を放課後に移動したり、集会活動を昼休みや業間に短時間で実施したりすることで、授業時数の確保に努めてきた。 【次年度の方針】 引き続き、有意義な教育活動が行えるよう教育課程の改善を図っていく。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・授業参観やオープンスクールの実施により積極的に学校を公開したり、「学校だより」や「学年だより」等の発行や「学校ホームページ」の更新を定期的に行ったりして情報を提供し、保護者や地域の方々に学校の取組を知らせる。	【達成状況】 保護者の肯定回答は94.7%で、数値指標を達成した。「学校だより」や「学校公開」に加え、HPの充実など、より積極的な情報発信に対して一定の評価をいただけたものと受け止める。特に今年度は、「ホームページ」で学校だよりや学年だより等を定期的に更新し、積極的な情報発信を心掛けてきた。 【次年度の方針】 次年度は年3回の授業参観に加え、オープンスクール等学校公開の場を増やして、更に開かれた学校づくりを目指していく。また、適宜「学校だより」や「学年だより」「ホームページ」等で情報を発信する。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。 ・交流学習やふれあい活動など、参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 ・活動の内容を掲示コーナーで紹介し、活動への理解を促す。	【達成状況】 保護者及び教職員の肯定的回答率は 92.5%, 97.0%で数値指標を達成している。地域協議会やPTAとの連携のもと、読書や各教科、農園活動などのボランティアを中心に地域人材を活用した教育活動を実践することができた。 【次年度の方針】 引き続き、家庭や地域等と連携して教育活動の充実に努めるとともに情報発信を行い、学校運営への理解を広めていく。

A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品などが整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上	・児童の環境美化に対する意識を高め、進んで協働する態度が育つよう、縦割り班による清掃活動の充実に努める。 ・機動班作業や職員作業を計画的に取り入れたり、保護者や地域の協力をいただいたりして、学校環境の整備・充実を図る。 ・靴箱や机、ロッカーの整理の仕方を具体的に示し、身近なところから綺麗にしたり、物を大切にしたりしようとする態度を育てる。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率は 92.0%で、数値指標を達成した。児童のアイデアを生かした掲示物による教室環境の整備など、児童の主体性を生かし、活動の様子が見える環境づくりに取り組んだことに評価をいただけたものとする。 教職員の回答率からは、児童用の机、椅子、ロッカー整理をはじめ、各教室の使い勝手のよい物品整理の在り方等、細部にわたる教育環境整備の必要性が示唆された。 【次年度の方針】 整理整頓の方法を可視化し、児童や教職員の意識を高め、校内環境整備を工夫していく。 上級生が下級生の面倒を見ながら共に清掃に取り組む等、縦割り班のよさを生かして、主体性や協調性を養う。 日々協力し整理整頓及び清掃に努めるとともに、引き続きPTAや地域のご協力を仰ぎ、また、機動班を計画的に活用しながら、学校環境の整備を進める。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上	・小中9年間を貫く教育が児童の望ましい成長につながるよう、目的や方法について全教職員が理解を共有し、連携して推進する。 ・WGS あいさつ運動や中学生の行事への参加などを積極的に実践し、地域の活性化を図る。 ・取組の様子や成果等を保護者や地域に積極的に発信し、理解と協力を仰ぐ。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率は 85.3%で、数値指標を上回った。学校間での相互乗り入れ授業や合同でのあいさつ運動など、交流活動を通して中学校との連携を深めることができた。 【次年度の方針】 保護者や地域からの理解を広めるため、各種たよりや学校ホームページでの情報発信に積極的に取り組み、小中一貫教育・地域学校園に対する関心と理解の醸成に学校として取り組んでいく。
A 11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 全体アンケート「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・学校図書館司書や外国語指導助手 (ALT)、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー (SC) 等、多様な専門性を有する学校スタッフが、「チーム学校」としてよさを最大限に発揮できるよう、取組の目的や運営方針、方法等について十分に話し合い、理解を共有して取り組めるようにする。 ・明るく和やかな雰囲気の中で信頼関係を築くことができるよう努め、情報交換や振り返りを通して改善を加えながら進めることで、一人一人が十分に力を発揮できるようにする。	【達成状況】 教職員による肯定的回答率は 84.8%で数値指標及び市平均を上回っている。学校スタッフの連携が効率的・効果的な業務の改善に生かされている実感が職場全体にある。 【次年度の方針】 多様な専門性を有する学校スタッフが、「チーム学校」としてよさを最大限に発揮できるよう、引き続き取組の目的や運営方針、方法等について十分に話し合い、理解を共有して取り組む。明るく和やかな職場環境の維持に努め、情報交換や振り返りを通して改善を図っていく。

教育活動の状況	生 活	A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 全体アンケート「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・教職員と多様な専門性を有する学校スタッフとが円滑なコミュニケーションを図りながら気持ちよく業務を遂行できるよう、日頃から明るく和やかな風通しのよい職場環境づくりに努める。 ・専門性を有する学校スタッフと管理職を含む教職員との協議を定期的に行うことで、組織の中で専門性がより生かせるようにする。	A	【達成状況】 教員の肯定的回答率は 100%と極めて高い値となった。職場での人間関係は大変よい雰囲気、教員と学校スタッフとの間のコミュニケーションも十分に図られている。 【次年度の方針】 「児童のために」という共通の目的意識を引き続き大切に、こまめに打合せや情報交換をしながら、職務の遂行に努めていく。 今後も明るく風通しのよい職場環境を保持していく。
		B1 学校は、家庭や地域と連携・協力して、児童の安全確保のため危機管理に努めている。 【数値指標】 学校独自アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協力して、児童の安全確保のため危機管理に努めている」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・児童の安全確保のため、家庭や地域及び関係諸機関と連携・協力して、未然防止及び緊急対応のための体制を整える。 ・危機管理マニュアルを定期的に点検・改善・共有し、緊急時の迅速かつ確な対応に努める。 ・地震・火災、竜巻、不審者対応避難訓練及び保護者への引渡し訓練等を年間計画にバランスよく配置して実施し、家庭や地域に情報を発信する。 ・「こども110番の家」協力者の更新・整備を保護者や地域と連携・協力して行う。	A	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 92.6%で、数値指標を達成した。「交通安全立哨指導」「地震・火災対応避難訓練」「引き渡し訓練」「不審者対応避難訓練」「竜巻対応避難訓練」等を通して、「自分の命は自分で守る」指導を積み重ね、保護者に一定の理解を得られた。 また、定期の安全点検に加え、時宜を得た点検を全職員で実施することで、常に複数の目で学校施設の安全を確認し、速やかな修繕を行っている。 【次年度の方針】 児童の安全のために学校が取り組んでいる活動を保護者や地域住民に積極的に発信したり、地域の方から安全・安心に関わる情報を得たりして、共に児童の安心安全を築いていくよい関係を構築する。
		A13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	・全学級ローテーションのあいさつ運動や、若松原地域学校園として小中連携によるあいさつ運動を継続していく。また、あいさつ運動で使ったのぼりを廊下に置いて、あいさつに対する意識向上を図る。 ・PTAや地域協議会と連携し、「大人から進んであいさつする」活動を地域ぐるみで展開していく。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答は、87.9%で指標及び昨年度を上回った。また保護者の肯定的回答は 79.6%でやや指標を下回ったが昨年度よりも 7.7 ポイント上がっている。地道な取組に加えて、掲示物等での啓発が効果的であった。 【次年度の方針】 これまで通り学校、家庭、地域の連携した気持ちのよいあいさつの励行に取り組んでいく。また大人から率先垂範していくことも継続していきたい。
		A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、大人に対して適切な言葉づかいや返事をしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	・国語科や会話科の学習を中心に、発達段階に応じた具体的な言葉づかいを指導する。生活目標にも言葉づかいについての目標を取り上げ、正しい言葉遣いへの意識付けを図る。 ・学校生活において友達同士での言葉づかい、敬称を付けた友達の呼び方、教師や大人に対する敬語の使い方ができるよう常時指導をするとともに、各家庭にも懇談会等を通して協力を呼び掛ける。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答は 76.2%，保護者は 74.6%で、数値指標を下回ったが、いずれも昨年度より上回ることができた。 【次年度の方針】 時と場に応じた正しい言葉遣いを根気強く指導徹底し、意識の向上を図る。また、懇談やたより等、家庭にも呼び掛ける機会を増やしていく。また、できたことをほめる機会を作り、自己肯定感の向上を図ることで意識を高める。

健康・体力	A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・体育部を中心とし、教科体育において魅力ある授業づくりに努める。 ・校内や若松原地域学校園で統一した検定表を活用することで、児童の運動技能を効果的に積み上げ、運動への意欲が高まるように支援していく。 ・ジャンピングボード・一輪車・投てき板など、児童が進んで運動に利用できる器具の整備を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は90.0%(昨年度比5.6ポイント)で、数値指標を達成した。運動委員会による外遊びデーのイベントや手作りのストラックアウト設置、校庭遊具の修繕や活用法の工夫により、児童の運動への意識が高まり、積極的に外遊びをする児童が増えたと考える。陸上大会練習期間には、自主的に休み時間や放課後に練習に取り組む児童も多く見られた。 【次年度の方針】 健康・体力向上を目指し、教職員の共通理解のもと指導にあたる。また、新体力テストの結果をふまえて、本校児童の体力面の課題に焦点をあてた体育授業の提案を行う。児童運動委員会を中心に、休み時間における「体力づくり」を行い、児童の運動への意欲を高める。
	A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分の子どもは、好き嫌がなく食事をしている(嫌いなものでも1口は食べている)」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・「お弁当の日」や「校内給食週間」、若松原地域学校園統一の「食育ファイル」等で家庭との連携を推進する。 ・食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や栄養教諭と協力して計画的に実施していく。 ・「食育だより」や学校のホームページなどを活用し、食への関心・意欲を高めるよう努める。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は82.8%で、数値指標を達成した。「お弁当の日」「校内給食週間」「マナー週間」「親子給食試食会」等の行事で、「嫌いなものも一口は食べる」指導を継続し、保護者に一定の理解を得られた。 肯定的回答を昨年度と比較すると、今年度「嫌いなものでも1口は食べる」との一文が加わったことにより、13.2ポイント上昇した。配膳の仕方を工夫したことにより、配食されたものを食べ切る習慣が児童に定着してきたと考える。 【次年度の方針】 給食の時間に栄養教諭がクラスを巡回して食育指導を行ったり、年間指導計画に食育指導を位置づけて授業を行ったりと、食育に関する指導を今後も充実させていく。また、食育だよりや学校ホームページ等で食育指導の様子を発信し、保護者や地域住民にも食への理解を深めていく。
	B2 児童は、健康に関心をもち、望ましい生活習慣を身に付けている。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、健康に関心をもち、手洗い・うがい・歯みがき・汗の始末・衣服の調節・教室の換気を進んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	・生活目標や保健だより等を通して、健康に関心をもって生活することや、望ましい生活習慣を身に付けることの大切さを伝え、児童の意識を高めるとともに家庭の連携・協力を仰ぐ。 ・養護教諭と連携を図りながら保健学習の計画的、効果的实施に努める。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答は88.4%で、数値指標を達成した。児童保健委員会によるポスターの掲示、教室換気の呼び掛け、機器を使った温度・湿度測定などの活動を行った。また、健康的な生活習慣を定着させる週目標を設定したり、地域学校園共通で菌垢の染め出しを実施し保健だよりに掲載したりした。これらの取組から、児童の健康への意識付けが図れたと考える。 【次年度の方針】 「すくすくカレンダー」「保健だより」を活用して家庭への啓発を行ったり、健康のために学校が取り組んでいる活動を保護者や地域住民に積極的に発信したりして、理解を深める。

学 習 等	A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・興味関心を高めるための指導法を工夫改善したり、認め合い高め合う集団づくりなど学業指導を継続して実施したりして、児童の学習意欲を高める。 ・学習の中に表現の場を積極的に設け、自分の思いや考えを表現する経験の習慣化を図る。	B 【達成状況】 児童による肯定的回答率は前年度比 1.8 ポイント増の 89.5%で数値指標を上回った。市平均より 1.7 ポイント下回ったが同程度と言える。各単元で授業の工夫を図り、児童一人一人が目的意識をもち、進んで学びに向かおうとするきっかけづくりを行ってきた。 【次年度の方針】 よりよい授業になるよう、全教職員で指導法を工夫改善する。一人一授業を実践し、互いに学び合うことで教師の授業力向上を図る。
	A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・基本的な学習のきまり」について、掲示物を活用して児童への意識付けを図るとともに、各教室に学習態度等に関する重点指導項目を掲示するなどして、児童と共通認識を持ち、落ち着いて学習に取り組めるようにする。 ・個別の支援が必要な場合は、対応を検討するための話し合いを積極的にもち、各担当者間で連携して指導に当たる。	B 【達成状況】 保護者による肯定的回答率は 84.2%で、数値指標を上回った。経年推移を見ても過去 6 年間で最高値となり、一定の理解を得られたものとする。各単元で授業の工夫を図り、児童一人一人が目的意識をもち、進んで学びに向かおうとするきっかけづくりを行ってきた。 【次年度の方針】 引き続き「基本的な学習のきまり」についての掲示物を活用し、児童への意欲付けと校内での共通理解を図る。また、個別支援が必要な児童へのきめ細やかな対応を迅速かつ組織的に行うように努める。
	A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	・地域の団体との連携を図り、行事等の情報を共有したり、児童の参加を促したりする。 ・地域で行われる行事や活動や様子を、学校だよりや掲示物・ホームページなどで紹介し、児童や家庭の関心を高める。	A 【達成状況】 肯定的回答率は、保護者 60.8%、地域 62.5%で、いずれも数値指標、市平均を下回った。 本校は、保護者や地域と連携し表立って行うボランティア活動は実施していない。しかし、児童は学校生活の中で、困っている友達を助けたり下学年の面倒を見たりと、相手のためになることを楽しそうにさり気なく行っている。各学級で児童が創意工夫して活動する係活動においても、「ボランティア係」や「お助け係」となって皆のために少しでも役立とうとする姿が多く見られる。このような何気ない優しさや小さな善意は、ボランティア精神そのものであり、児童本人や周囲の大人が気付かないところで、小さなボランティア活動は盛んに行われていると言える。 また、「地域の行事への参加」の視点から見ると、地域の絶大な協力のもと毎年実施されている「納涼盆踊り大会」が、今年度は酷暑や台風の影響でやむなく中止となり、心待ちにしていた多くの児童や保護者、地域の方々の思いに沿えなかったことも一つの要因と考える。 【次年度の方針】 児童のさり気ない善意の行動を見逃すことなく、引き続きしっかりと見取り、認め励まし、そのよさを校内だけでなく保護者や地域の方々に伝えていく。休み時間に校庭から教室に戻る途中、草を取ったり落ち葉を拾ったりする小さなボランティア活動を推奨していく。これらの心掛けが日常生活の中に当然のものとして根付き、地域での生活の中に広がっていくよう、教職員、保護者、地域が協働の意識をもって連携して取り組む。地域で行われる行事や活動を積極的に周知し、地域の中での児童の活躍の場を増やしていく。

本校の特色・課題等	B3 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・新田小学校「すくすくカレンダー」を活用し、定期的に家庭に情報を提供したり、協力を促したりする。 ・各学年の児童の実態や発達段階に応じた内容や分量を工夫し、進んで楽しく継続して取り組むことができるよう努める。 ・家庭学習のよい事例を積極的に紹介したり称賛したりして、意欲を高めたり学習方法の習得につなげたりする。(漢字練習法の統一・自学ノートの活用)	A 【達成状況】 保護者による肯定的回答率は 80.2%で、数値指標と同程度である。今年度は「すくすくカレンダー」を長期休業後や学期開始時期だけではなく、毎月発行し、音読カードとともに毎日チェックする形式にしたことが、児童自身の習慣づけや保護者への意識付けに効果的であったと言える。 【次年度の方針】 学年の発達段階に応じた宿題の出し方を工夫する。自学ノートのテーマリストを作成したり、ノートの使い方を明示したりすることにより、まずは「自分にもできそうだ」という意欲付けを図る。更に、自学した内容についてのふり返りを書かせ、それに教師の励ましを加えることにより、児童の意欲向上を図る。
	B4 児童は、進んで本を読んだり、学習に活用したりしている。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は進んで本を読んだり、調べ学習等で活用したりしている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・定期的に読書の時間を設けたり、ボランティアや担任交換による読み聞かせを行ったりして、読書に対する興味関心を高める。 ・市立図書館学校支援室の有効活用や、家庭と連携した家読(「親子読書」)の実践等、児童と本をつなぐ取組を推進する。	B 【達成状況】 児童による肯定的回答率は 78.1%で数値指標を下回っているが、教職員は 97.0%と高く、意識のずれがある。授業中、調べ学習をするときや同じ作者のシリーズを活用したいとき、図書館司書が南図書館から本を取り寄せ、活用する回数も多い。 【次年度の方針】 どの学級も図書室利用の時間を 1 時間設けているので、その時間は積極的に読書に取り組ませる。家族ふれあい読書の推進、朝の読書の在り方の検討、調べ学習で図書室を利用するなど、本に親しませる工夫に努める。また、地域学校園や南図書館を計画的に活用できるようにする。
	B5 児童は、異学年交流を通して、自主性や思いやりの心、豊かな人間関係を育んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、異学年交流で、多くの友達と助け合いながら楽しく活動している。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年や幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。 ・縦割り班の班長を中心に児童が主体的に活動できる機会を増やしていくことで、他の人のために役に立っているという意識(自己有用感)を高めるとともに、互いのよさを見つけ、協調して活動しようという態度を育てる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 89.9%で、数値目標を上回った。教職員、家庭、地域とも総じて高い結果を得た。上学年が下学年の面倒を見たり、下学年が上学年の姿を見て学んだりするなど、望ましい人間関係、よりよい活動が多く見られた。 【次年度の方針】 異学年で協力できる活動に継続して取り組んでいく。縦割り班等での話し合いでは、班長が低・中学年の児童の意見も積極的に取り入れるように支援し、どの学年の児童も所属感をもって意欲的に活動できるようにしていく。高学年の児童には、「6 年生を送る会」などを活用して周りから感謝される機会を作り、自己有用感をさらに高めていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・ 数値指標達成状況からみると、約 8 割の項目で達成できた。中でも、「**学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気**」「**よいところを認め、熱心に指導**」「**分かりやすい授業やきめ細かな指導**」「**教育課程の適切な実施**」「**積極的に情報発信**」「**家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営を充実**」「**異学年交流によるコミュニケーション向上**」などで、**保護者・地域・児童・教職員の全てから高い結果が得られた**。今後とも、本校・本地域のよさを生かし、協力・連携を深めながら教育活動を実施していきたい。
- ・ 全市小学校の平均と比較しても高評価を得た項目も見られた。特に「**学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気**」「**休み時間や放課後などに積極的に運動**」では、3つの対象者において市平均を上回った。全校一丸となって取り組んできたことが成果として表れたことは、大きな励みとなった。
- ・ 経年比較により、評価が漸次向上した項目も見られた。中でも保護者においては、「**学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気**」「**よいところを認め、熱心に指導**」「**分かりやすい授業やきめ細かな指導**」「**いじめへの熱心な取組**」「**時と場に応じたあいさつ**」「**時と場に応じた言葉遣い**」「**嫌いなものでも一口は食べる**」「**積極的に学習**」「**落ち着いて学習**」の 9 項目において、過去 5 年の推移からしても最高値を得た。これらの項目は本校が重点課題として取り組んできた内容に関わるものであり、保護者や地域の協力を仰ぎながら築いてきた温かい人間関係を基盤としたたゆまぬ努力の成果と考える。また、「**きまりやマナー**」「**積極的に学習**」において、地域住民より過去 5 年比最高の評価をいただいたことは、大いなる次年度への意欲につながった。児童については、特に「**教育課程の適切な実施**」「**清掃、整頓、学習しやすい環境**」「**嫌いなものでも一口は食べる**」において過去 5 年で最も高い評価となり、児童自らが教育成果を実感していることが推察される。
- ・ 個々の項目については、引き続き「**きまりやマナー**」「**あいさつ**」「**言葉遣い**」の課題が浮き彫りになった。また、今年度新設された「**地域のボランティア活動、行事への参加**」についても、保護者や地域とともに十分な意識の共有を図り、一層の連携・協力が求められている。
- ・ 未来を担う子どもたちのよりよい成長のために、本校のもつ地域の特色やよさを最大限に生かしながら、学校を取り巻く様々な実情にしっかりと目を向け、よりよい教育活動の再構築を目指したい。

6 学校関係者評価

〈テーマ 1〉「あいさつ」

- ・ 見守り活動中、声掛けするとあいさつを返してくれる児童が増えた。あいさつはよくなってきていると実感している。
- ・ 役割は人を変えるもので、班長になるとあいさつができるようになったりする。あいさつは強制してできるようになるものではない。長い目で根気強く関わっていききたい。
- ・ あいさつに順序はない。大切と思うなら、自分からできるようにしたい。
- ・ 大人が真剣に取り組む地域は、きっと子どももあいさつができるようになる。地域ぐるみで取り組むことが大切だ。

〈テーマ 2〉「言葉遣い」

- ・ 言葉遣いの悪さは本校に限らず、地域の様々な場面で感じる。言葉を覚えたての幼児から聞くこともある。テレビや周囲の大人の影響が大きいのではないかと。大人が正しい言葉を遣えるように日頃から気を付けていきたい。
- ・ 中学生くらいになると、家庭内では悪くても、外に出れば意外とそれなりの言葉遣いができているということもある。子どもを信じて根気よく関わりたい。

〈テーマ 3〉「ボランティア活動・行事」

- ・ 自治会で「クリーン作戦」を行っているが、育成会の親たちが活動前にお菓子を配る姿を見て考えさせられた。褒美のために働くのではない。ボランティアとは何かを皆で考えたい。
- ・ 子どもたちは、日頃、さり気なく「お手伝いしますか」と声を掛けて手伝ってくれる。優しい子がたくさんいる。
- ・ ボランティアをしているという意識なしに活動している人も多いのかもしれない。無意識に、ただ誰かのために行っている姿を見取り、認めてあげることが大切になりたい。

◎ 3 テーマとも、学校だけでなく保護者、地域が手を携えて取り組むことが重要である。

〈その他〉

- ・ いじめに対する対応については、学校が日頃から熱心に細やかに取り組んでいることがよく分かった。
- ・ 昨今心配されている児童虐待については、地域の役割として、学校その他の関係機関とどのように連携協力していくか、考えていきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<学校運営>

- ・ 重点目標「自己肯定感が高く、へこたれない力の強い児童の育成」のもと、子どもの思考・判断・表現力と「褒められた経験」「叱られた経験」を大切に、明るく楽しい活気に満ちた学校づくりを目指し、保護者や地域の協力のもと教職員が一丸となって推進してきた。今後は、児童の自己肯定感やへこたれない心の育成を引き続き重んじながら、児童や保護者、地域の願いを受け止め、『友達大好き、運動大好き、勉強大好き、地域大好き』とみんなが言える学校づくりを目指す。学校と保護者、地域が協働し一体となって取り組んでいくとともに、教職員が互いに磨き合う意識を高め、切磋琢磨する場の充実を図ることで、学校力を高めていく。

<学習指導>

- ・ 「自ら学びに向かおうとする児童の育成～学びたいと思わせる導入を生かした授業展開の工夫～」を重点目標に掲げ、学びたいと思わせる導入の工夫や分かる授業展開について研究を進めてきた。今後は、これらの成果と各種調査の結果を踏まえて、更に児童の実態に即した工夫改善を行うことにより、児童一人一人が学ぶことの本質的な楽しさを体感し、学びに向かう態度を身に付けられるよう、研究を進めていく。また、地域素材や地域人材、地域の教育力を生かして、児童が互いのよさを認め合い、共に学び合う授業の展開を追求していく。

<児童生徒指導>

- ・ 「自他への思いやりの心を持ち、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」を目指して、学年学級経営の充実を基盤に、家庭・地域・関係機関と連携し、基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成、望ましい集団づくりに向けたよりよい人間関係づくりを推進してきた。今後は、引き続き課題となる正しい言葉遣いと礼儀を意識した挨拶の定着に向けて、また、ボランティア精神の育成と自尊感情の向上を目指して、家庭や地域との連携を深めながら取り組んでいく。また、それらの取組を通して、家庭・学校・地域等、社会に対する帰属意識を高めるとともに、互いの人権を尊重し合う意識の涵養を図っていく。

<健康（体力・保健・食・安全）>

- ・ 「自らの健康に関心を持ち、望ましい生活習慣を身につけようとする児童の育成」を重点目標に、生活習慣の改善を目指した保健指導の取組を中心として、家庭・地域と連携し、健康の保持増進や運動の日常化、食に関する指導の充実に向けて推進してきた。今後は、これまでの成果と児童の実態をもとに、取組の中心を保健指導から体力、食、安全へと広げていく。児童が自らの命を守り健康を保持増進するために、主体的に考え、判断し、行動することができるよう、望ましい生活習慣の定着に向けた指導の工夫改善に焦点を当てる。その中で、困難さへのチャレンジや苦手なことの克服等、自己肯定感やへこたれない心につながる体験を重視していく。